

第 541 回経済学会例会報告要旨

2015 年 2 月 6 日

「非営利経済セクターと社会ネットワーク-社会関係に関する経済社会学的分析の可能性-」

鈴木 純

非営利組織に接続されるさまざまなレベルの社会ネットワークが、組織の機能に対してどのような影響を与えるのか。これは、現実の非営利セクターにおいてネットワークの役割が強調され、その活発な形成が注目される今日、理論的・実証的な解明が求められている問題である。本報告では、この研究課題の背景について、経済体制論の転換からはじまる課題の展開を辿ることで、非営利経済セクターに関する研究状況を整理するとともに、社会ネットワークと非営利組織の関連を明らかにする研究の意義と含意を検討した。

経済体制の多様性を捉えることのできる多面的な認識枠組みの構築は、90 年代以降の経済体制論にとって共通のテーマである。そこで鍵となるのは、多様な形態の企業組織の取り込みであり、とりわけ非営利組織に代表される非営利経済セクターの諸主体を全体経済の中にどのように位置づけるかである。しかし、非営利組織を対象とする経済学的研究の現状を見ると、そこに広く共有される分析基盤が形成されているとは言えない。これは、財・サービスの取引関係を含む、より広い意味での社会関係が経済活動に与える影響を分析に組み入れることの困難に由来すると考えられる。社会関係と非営利組織との結びつきに関して、本報告では「関係財」概念を用いた理論的な説明を紹介するとともに、主体間の個別的な社会関係を越えた、多層的な社会ネットワークとの機能上の連関を明らかにする研究について、非営利組織研究のみならず、経済体制論的課題への含意を示した。